

アトピー - 性皮膚炎の経験と葛藤
- 青年期における心理・社会的問題について -

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
臨床心理学領域

私はこれまで、ユニークフェイスやアトピー性皮膚炎など、顔にあざや傷のある人たちを対象に心理的な支援の方法を研究してきた。その過程において、「もてる・もてない」という異性の評価も含めて、単に他者の視線を取り上げるだけでは片付けられない多くの問題があることを実感した。特にアトピー性皮膚炎の当事者に関しては、その傾向が著しい。その理由の一つとして、治療に関する問題がある。親が子どものアトピー性皮膚炎を治療したいがために、しばしば過剰な管理をしてしまい、子どもは其中で様々な葛藤に陥ることがある。だからこそ、今回は、外見という問題を研究の射程に入れつつも、当事者の人間関係、特に親子の葛藤に焦点をあて研究を行った。

ここで、私が取り上げる問題について整理する。第一は、アトピー性皮膚炎の治療という面についてである。アトピー性皮膚炎は、特効薬がなく、また効果的な治療は個人によって異なることから、有効策を見つけることが難しい。そのため、幾つもの治療法を同時に行う親は、時に子どもを過剰に管理せざるをえなくなる。一方で、その管理が子どもの生活に制限をきたし、結果として、彼らは治療と管理の間で板ばさみになる。

第二は、親子関係以外の人間関係（学校、異性、医者など）において当事者が抱く葛藤に焦点を当てる。

第三は、アトピー性皮膚炎による外見の問題の特殊性に焦点を当てる。また、外見の変化のためにどのような葛藤に陥っているのか。

以上の点に着目して研究を行った結果、その関係として、私が特定して考えたカテゴリーは、＜家族＞の他に＜学校＞・＜異性＞・＜医者＞である。

家族 - 「管理された生活と当事者の葛藤」・・・親によって当事者は時に管理された生活を強いられる。そこで、当事者と親との間に様々な葛藤が生じる。アトピー性皮膚炎の原因は特定できず、あくまで推測である（原因推測）ことから、様々な面において家族は当事者の行動を制限してしまい、時には家族が子どもに対して過剰な管理（過剰な管理）をしてしまうこともある。また、親にとって、子どもとの接し方が難しく、時に子どもを葛藤させたり傷つけたりする。親や家族の善意からくるもの（傷つける善意）や、アトピー性皮膚炎への原因の理由付けや決め付けからくるもの（理由付け・決め付け）などがある。さらに親の関わり方によっては、当事者の成長にマイナスの影響を与える時もあるということで、過保護の問題を取り上げる。あと、家族・親類が世間の目を気にするあまり、当事者が苦しむ過程（世間の目）があったり、親が子どもに一方的に叱りつけたりすること（叱りつける）もある。

学校 - 「他者のまなざしへの過剰意識」・・・学校では、友人やクラスのメンバーとの関わりなどがある。その関わり合いの中で成長するにしたいが、当事者の＜外見に対する価

価値観>の大きな変化があった。学校における人間関係の中で、アトピー性皮膚炎という症状があることから<他者のまなざし>を過度に意識するようになる。だが、時間とともに<友人関係>や<学校>が変わったりすることで、その意識が変化していく。

異性 - 「恋愛下手」・・・当事者は恋愛下手であると言う。また異性からの評価が<自分を追いこむ原因>になっていたことがある。異性に対して、外見がきれいではないと<結婚できないと思込む>。そうして、外見を重視する社会の価値観によって追い詰められてしまうだけでなく、<自分で自分を追い込んでしまう>。

医師 「医師に求めるもの」・・・医師に様々な面で<期待してしまう>患者の存在がある。アトピー性皮膚炎が治るということは、他者からアトピー性皮膚炎の症状が見えなくことでもある。そのこともあり、<期待>は大きなものになるし、治すために時間やお金をかけてしまう。

また、アトピー性皮膚炎の症状の特有さとして、良い悪いという<サイクル>がある。当事者は、症状の良い時に、その限られた時間、<タイムリミット>の中で楽しむ人もいる。外見をとかく気にしてしまわざるをえない中で、アトピー性皮膚炎の症状があることは、その良し悪しの<サイクル>があるために、感情の起伏をもたらすことが特徴である。このようにアトピー性皮膚炎があるために、家族はその当事者を中心とした生活スタイルになってしまっていた。また、アトピー性皮膚炎によって他者のまなざしを過剰に意識してしまうことも、当事者の人生に大きな影響を与える意味で重要な問題の一つとして位置付けることができるだろう。現在の社会は、外見を重要視していて、「普通」の人でも、外見を意識してしまう社会であること、思春期は他者のまなざしを過剰に気にする時期であるということもあって、問題は深いものになっている。

アトピー性皮膚炎の患者に対して、治療や看護などの医学面、ストレス等の心理面からアプローチした研究は多い。だが、今回の研究で、他者のまなざしを過度に気にしてしまう問題、当事者と親の関係、さらには当事者や家族を取り巻く社会との関係についてさらに研究する必要があると認識した。

課題として、今後は親の視点からアトピー性皮膚炎の問題を取り上げることで、より鮮明にアトピー性皮膚炎の問題が見えてくるのではなかろうか。